

森づくり最前線

福島森林管理署 福島森林事務所 首席森林官 星 信義



摺上川 ダム
(すりかみがわ)

【管内の概要】
福島森林事務所は、福島市の北西部、宮城県や山形県との県境に近い約2万haの国有林を管理しています。奥羽山系の栗子山（1,217m）・豪志山（1,022m）を水源とする摺上川の上流域が主体であり、そこから生まれる上質の水は、福島市内で阿武隈川と合流し、宮城県から太平洋に注いでいます。



【歴史】
当森林事務所管内は古くから林業が盛んで、昭和11年から28年まで、福島営林署直営の茂庭製材所が広葉樹の製材事業を行っていました。製材所から上流へ約10kmにわたり森林軌道も敷設され、トロッコ運材が行われていました。太平洋戦争中は、飛行機のプロペラ用材として大量のブナ材を供出し、昭和18年には農林大臣が官行事業所に激励に訪れたこともあり、林業により繁栄した歴史のある地域です。

戦中・戦後に伐採された森は、その後、ブナ等の豊かな広葉樹林が回復し山形県との県境の稜線部は、現在、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」に指定されています。自然度の高いエリアで、猛禽類や獣類も数多く生息しています。



ブナ材のトロッコ運材

【現状】
かつて林業で繁栄した摺上川上流域は、東北地方有数の規模の摺上川ダムが平成18年に完成、多くの集落が移転し、現在は人が住まない地域

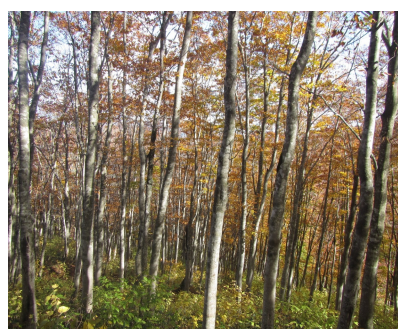
となつています。ダム上流域のほとんどが国有林で、水源を汚染する施設が無いことから水質は特に良好に保たれ、世界的品質コンテストのモンドセレクションで昨年、最高金賞を受賞しています。福島市では、蛇口をひねると国有林生まれの超軟水のおいしい「ふくしまの水」が出てきます。市は、水道水源条例により民間事業者の事業を規制しています。この地域の国有林は、緑の水瓶として大きな期待が寄せられています。

戦中・戦後の伐採跡地の一部に植栽されたスギやアカマツは、伐採時期を迎えています。生産した木材は、森林事務所の敷地を土場として活用しながら、合板工場やチップ工場、バイオマス発電所などに供給しています。

【これから】
管内に隣接する米沢市では、本年1月にバイオマス発電所が開業し、燃料としての木材需要が高まっております。また、マツ類は、各地の社寺仏



トドノネオオワタムシ(根太根太綿虫)
約4mm。いわゆる雪虫の一種。アブラムシの仲間。
新たな寄主へ移るため、年2回だけ羽の異なる個体が生まれる。



水源地のブナ二次林

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 230-1393

先輩方が営々と育ててきた山を生かし、地域と連携を図りながら、良質で豊富な水や木材の供給、自然環境、そして再生可能な自然エネルギー資源として、益々高まっている国有林の使命を果たしていきたいと思ひます。